

銀賞

じょう化センターで学んだこと

瀧上 翔亜

須恵町立須恵第一小学校

みなさんは、生活から出たよごれてきたなくなった水が、どのようにしてきれいな水になるか、考えたことがありますか。おふろの水やトイレの水などを使っているけど、ぼくは一度も考えたことがありませんでした。

多々良川じょう化センターでは、まず下水道がある町とない町のD・Vを見せられました。下水道がある町は、飲み水としても利用でき、川や海などもきれいな水になり住みよい町でくらすことができます。けれども、下水道がない町は、水も飲めなくて、川や海もきたないままで、住みよい町でくらすことができませんでした。だから、下水道はぼくたちにとってかけがえのないものだとなりました。

水は、び生物の入ったさい終ちんでん池できれいにされています。どろやよごれが、び生物の食べ物なので、び生物のおかげで汚水をきれいにすることができしかも、び生物はとても小さな生き物です。び生物をけんびきょうで見ると一センチメートルよりも小さかったです。小さいけれど、とても大切な仕事をしているび生物に、ぼくはとてもおどろきました。

次に、しせつの外を見学させてもらいました。汚水が流れている上を通ると、水の色は茶色でした。だんだん進んで、さい終ちんでん池に着くと、あんなにごっていた水が、とてもきれいになっていて、ぼくはび生物ってすごいなと思いました。

さい後に、けんびきょうでび生物を見たり、汚水や汚泥のにおいをかいだりしました。汚水のおいはくさかったです。汚泥のにおいは汚水の三倍ぐらいくさかったです。ぼくは思わず、

「こんなにくさいにおいは初めてだ。」

と言ってしまった。ここでも、ぼくは、こんなにおいのもとを食べてくれるび生物は、やつぱりすごいなと思いました。

「みんなが住みよい町にしたい。」

これが、多々良川じょう化センターの方の思いです。ぼくは、この言葉を聞いて、もしも、じょう化センターがなかったら、町はどうなるのだろうと不安になりました。なぜなら、汚水のまま川や海にもどすと、川や海もよごれ水中の中で生きている生き物たちも、生きられないからです。

じょう化センターは、ぼくたちの住みよいくらしをささえるうえで、なくてはならない大切なものです。ぼくは、生活をささえてくださるじょう化センターの方々に感しやの気持ちをわすれずに、きれいな水を守るために、川や海などにごみをすてないなど、自分にもできることをやっというと思います。